令和３年度文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業
事業名　　橋本博コレクション貴重資料のメディア芸術データベース登録へ向けての試行
団体　国立大学法人 熊本大学

概要／課題

日本の代表的なマンガ施設のアーカイブの源は、個人コレクションであることが多い。「メディア芸術データベース」にも未登録の貴重資料を持つ個人コレクターは全国各地に存在するが、その高齢化に伴い、コレクションの多くが個人では維持困難な段階を迎えており、コレクターの逝去と共に貴重な資料が散逸したり、海外に流出してしまったりする例が近年顕著化している。全国的な視野から、貴重な個人コレクションに関する情報を共有し、寄贈・寄託等の受入態勢を整備することは喫緊の課題である。本事業では、既存データベースに未登録の貴重なマンガコレクションの代表例として、熊本の橋本博コレクション（以下「橋本コレクション」と表記）十数万点のうち特に貴重な資料（約 800 点）を精選し、公的データベースに登録するための準備をすすめた。橋本氏は 1948 年生で戦後マンガ文化の歩みを体感してきた世代に属し、NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト（通称「クママン」）代表理事・合志マンガミュージアム館長などの役職を務め、マンガ文化の価値を社会的に発信する活動に従事してきた。本事業は、資料にまつわる氏自身の記憶も合わせてアーカイブの対象とし、個人コレクションのもつ文化資源としての価値をひろく発信する目的で進められた。

体制／手法

【対象資料】

1.「橋本コレクション」(10 数万点)の中の貴重資料（約 800 点）

1940～70 年代の、紙芝居、赤本漫画、絵物語、月刊少年・少女雑誌、付録漫画、貸本漫画、月刊、週刊少年・少女雑誌、評論・研究誌、新書判単行本、A5、B6 判単行本、青年・女性雑誌、文庫本、全集など。マンガ専門雑誌が創刊される前後の時代、日本のマンガ作品は一般雑誌や趣味の専門誌などに掲載されることが多かったが、「橋本コレクション」にはこれまでの研究で手薄になりがちであったそうしたマンガの周辺領域の資料や、既存のデータベースに未登録の赤本漫画・貸本漫画が多数含まれている。こうした資料は橋本氏のコメントを付して個人史と密接に結びついたかたちでデータ化することで、その時代を知悉するコレクター自身の知見を通してマンガ史を再構築する材料たりうる。

2. 1990 年代半ばの TV 番組作成用取材テープ（業務用ベータカム･20～30 分×150 本）

熊本放送(RKK)のテレビ番組の取材のため、橋本氏が 1995 年～96 年にかけて、当

時の「大御所」漫画家（横山光輝、小島剛夕、永島慎二ら）に長時間インタビューした素材テープである。テレビ局倉庫に保管されていたものが 2020 年 NPO クママンに寄贈されたが、劣化防止のため、デジタル化が急務であった。

【人員／設備】

NPO クママンのメンバー、熊本大学文学部現代文化資源学コースの学生、合志マンガミュージアムスタッフらが中心となって、日本マンガ学会資料収集保存部会等からの助言を得ながら作業を進めた。

【手法】

本事業は全国的な貴重コレクションのアーカイブ態勢を整える３年計画事業の、初年度にあたる。事業開始時より専門家の助言を得ながら、資料のリスト化・アーカイブ化の方法を慎重に吟味した。令和 2 年度に熊本大学が受託した文化庁メディア芸術連携基盤等整備推進事業「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」の成果も踏まえつつ、データの作成および素材テープのデジタル化を、上記の体制・手法によって進めた。

成果

（成果物）

・「橋本博コレクション」貴重資料リスト（約 800 点）

・「橋本博コレクションとその形成過程」インタビュー報告書

・1990 年代半ばの TV 番組作成用取材テープ（業務用ベータカム・20～30 分×150 本）のデジタル化

デジタル化された 1990 年代のインタビュー映像記録（DVD-video37 本）

（公開方法）

本事業の成果を一般にひろく広報するため、橋本氏が館長を務める合志マンガミュージアム（熊本県合志市）において、令和４年１月 29 日から６月 29 日まで、特別展「橋本博コレクション貴重資料展～これが私の「マンガ遺産」～」を開催し、関連資料も順次、同館ホームページ（https://koshi-mm.com）で公開している。

一度に展示する資料の数は約 50 点とし、会期途中で数回、展示内容の入れ替えを行う予定である。展示に当たっては、橋本博コレクションの中から、昭和 30 年代までの、紙芝居・赤本漫画・雑誌・貸本漫画・雑誌付録などの資料を抽出している。来館者に展示資料の貴重性を分かりやすく伝えるため、橋本氏自身の考案による「マンガ遺産」という言葉を用いて、氏自身が考える個々の資料の重要度を 3 段階で明示する工夫を試みた。

特別展（合志マンガミュージアム）

貴重資料（紙芝居）

貴重資料（赤本漫画）

（文化的・社会的・経済的な意義）

文化的な意義としては、これまでメディア芸術データベースに未登録だった赤本・貸本漫画をはじめとする1950年代前後の貴重資料やマンガの周辺領域資料のデータが得られた。また、アーカイブ構築においては資料の実物と共に個人の記憶をデータ化することが重要であることが本事業を通じて再確認され、現代文化の資源化に関する一つのモデルを提示できた。

社会的な意義としては、アーカイブ化に向けた一連の作業を、クママンのメンバーや熊本大学文学部現代文化資源学コース所属学生が担ったことにより、メディア芸術の価値と活用法を深く理解し多言語で情報発信できる人材の育成をスタートできた。また、本事業を通じ、資料の寄贈・寄託を希望するコレクターに対して、蔵書等コレクションの受入に関する情報が提供される前例ができたことで、将来自治体等にマンガ文化施設設置の協力を呼び掛ける際のきっかけづくりができた。

経済的な意義としては、今年度の成果について合志マンガミュージアムをはじめとする展示施設で公開し、Web でも発信することで、アーカイブ資料を活用した地域活性化へとつなげることができた。